

令和3年度 防衛大学校入校式
来賓代表（統合幕僚副長）祝辞

防衛大学校本科第69期学生、理工学研究科前期課程第60期、後期課程第21期学生及び総合安全保障研究科前期課程第25期、後期課程第13期の学生の諸君、また、遠く祖国を離れて入校された留学生の諸君、入校誠におめでとうございます。

諸君が見事難関を突破し、晴れて入校の栄冠を勝ち取られたことに敬意を称します。本来であれば、この日を待ち望んでおられたご家族の皆様とともに、お祝いするところではありますが、新型コロナウイルス感染症の影響から、それが叶わずに誠に残念です。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境は、極めて速いスピードで変化しております。国際社会のパワーバランスの変化は、加速化・複雑化し、既存の秩序をめぐる不確実性は増大するとともに、急速な技術革新に伴う軍事技術の進展により、戦闘様相は宇宙、サイバー、電磁波といった新たな領域を組み合わせたものに変化しております。こういった、不確実性の増大や新領域の出現により、一国のみでは対応が困難な安全保障上の課題も顕在化しております。

これらに対応すべく、我が国は新たな領域を含むすべての領域における能力を有機的に融合した、多次元統合防衛力を構築することとしています。我々は、真に戦える自衛隊を目指し、既成概念にとらわれることなく、従来とは抜本的に異なる速度で変革を図っていかなければなりません。その際、部隊運用の観点において中核となる存在は幹部自衛官なのです。

さて、本科学生の諸君は、今、希望と高揚感、そして一抹の不安を抱きつつこの式に臨んでいることと思います。時に厳しく、辛いこともあるでしょう。しかし、防衛大学校の職員そして先輩が熱意と愛情をもって導いてくれます。これからの生活は諸君の人生にとり、かけがえのない素晴らしい充実した4年間になることでしょう。ここ小原台に集う同期生とともに、青春を謳歌し、情熱を燃やして、これからの学生生活を送ってほしいと思います。

本日は、陸・海・空自衛隊を代表し、また、本校の卒業生として、将来の自衛隊の中核を担う本科学学生諸君に2点申し述べたいと思います。

まず、1点目は、「国家国民の視点に立ち、広い視野、科学的思考力そして豊かな人間性を培ってもらいたい。」ということです。

自衛隊は昭和29年に発足し、今年で60有余年が過ぎました。この間、自衛隊は、我が国の領土、領海、領空を守り、我が国の平和と独立、国民の安心・安全を守るため、日夜、国内外を問わず黙々と使命を果たしてきました。

その甲斐あって、自衛隊は、今や国民の9割から信頼を獲得するに至り、国外においても、その実力、信頼性は広く認められております。

これも、諸君の先輩が、進展する装備品の高度化に対応しつつ、部下隊員をまとめ上げ、高い使命感と責任感をもって自衛隊を率いてきたからだと言っても過言ではありません。また安全保障環境が複雑化し、任務が多様化する現在、自衛隊の中核たる幹部自衛官の存在意義はより一層高まっています。

諸君は、本日ここに、防衛大学校学生として宣誓を行い、学生生活がスタートしました。

将来、幹部自衛官として部隊を指揮し、国民の負託に応えるため、国家国民の視点に立ち、広い視野と科学的思考力と豊かな人間性を身に着けるべく、防衛大学校学生たる名誉と責任を自覚し、全力を尽くして学業等に励んでもらいたいと思います。

第2点目については、「同期、先輩、後輩との『絆』を育んでもらいたい」ということです。防衛省・自衛隊は、平成18年度から、統合運用体制へと移行し、自衛隊の行動は陸・海・空自衛隊を一体的に運用する統合運用が基本となっています。加えて、冒頭でも述べたとおり、我が国は多次元統合防衛力の構築が喫緊の課題となっております。これらのことから分かる通り、我が国の防衛において、統合運用の重要性は高まっているのです。

翻って、防衛大学校の教育の特徴に着目すると、防衛大学校は設立当初から統合の士官学校であり、統合士官学校の伝統校であるといえます。統合運用を成功に導く伝統がここにはある。ここで生まれる『絆』は、現在必要とされる統合運用をより発展させていくにあたり、より一層重要なものとなってきているのです。

諸君には、ここ小原台において、勉学の間や学生舎、さらには、校友会活動など、学生生活を通じて、同期、先輩、後輩とともに苦楽を共にし、強い『絆』を育んでもらいたいと思います。

留学生の諸君、諸君は、一人一人が貴国にとっての「宝」であり、日本にとっての「かけがえのない友人」であります。これからの4年間、日本の学生諸君とともに真の友情を築き、将来にわたり、祖国と日本との懸け橋になられんことを期待しています。

次に、理工学及び総合安全保障研究科学生の諸君に申し上げます。諸君はこれから学ぶ、科学技術及び安全保障に関する高度かつ専門的知識・技能は、国の防衛を全うするために必要不可欠のものであります。科学技術は日々進出し、安全保障環境も一層厳しさを増しています。自衛隊は、この変化に遅れをとることは許されません。

諸君は、多次元統合防衛力の構築に資するべく、高度の理論と応用についての知識、これらに関する研究能力の習得に日々研鑽をつんでほしいと思います。

結びに、ご家族の皆様方のご列席は叶いませんでしたが、ご子息・ご息女が今日のよき日を迎えられたことに対しまして、謹んでお喜びの意を表しますとともに、防衛大学校の今後益々のご発展と将来の国防を担う学生諸君が、今日の澁刺とした初心を忘れず、今後、大いに伸展されんことをこころから御祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。

令和3年4月5日
統合幕僚副長
空将 鈴木 康彦